

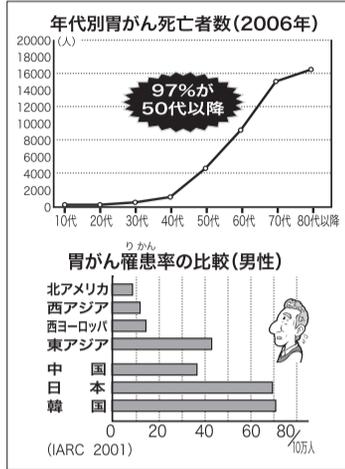
ピロリ菌の除菌と 検診で胃がんの 撲滅を



渡辺ふき子 (公明党)

①日本の胃がんによる死亡者数は年間5万人を越えている。最近の研究で、胃がんの原因の95%はピロリ菌の感染症であることが分かってきた。パンフレット等で周知し、胃がん検診の際に抗体検査を勧めないか。

福祉保健部長 知識を市民に知らせること



胃がんの年代別死亡者数と世界の罹患率

は大事。国の新たな胃がん検診の研究を踏まえ、市の対応を調査研究したい。

②災害発生時の緊急対応を万全に。(ア)二次避難所(福祉避難所)を拡充し、早急に指定すべき。(イ)緊急輸送道路沿道の建築物の耐震診断、耐震改修に補助金を導入しないか。

地域安全課長 (ア)福祉部局と調整して指定の拡充に努めたい。都市整備部長 (イ)国・東京都の補助を活用しながら進めたい。他再生エネルギーの活用を質問。

福島原発の 放射能汚染対策を



関根優司 (日本共産党)



市内で大気中放射能測定値を公表している法政大学

①福島原発事故は史上初めての重大事態。日本共産党都議団が都内128か所で独自に測定した放射能値は都の公表している測定値より上回る場所が多かった。保育園の園庭・小中学校の校庭・プール・公園等の独自の調査をするべき。

環境部長 大気については法政大イオンビーム研究所が測定しホームページで公開している。校庭の土壌や学校のプールは専門機関に委託して行う。給食は放射能測定器運営連絡協議会に毎年依頼してきたが、前倒しで実施する。

②医学的に正確な放射能の人体に与える影響と個人の被害防止対策を広報せよ。

福祉保健部長 厚生労働省や東京都のホームページに記載されているものと、多摩府中保健所の相談窓口を小金井市のホームページにリンクさせた。

脱原発自治体を 目指し、給食の 放射能測定を



片山 薫 (みどり・市民)

③11の震災、原発事故は生活の根本を変えた。二本松市長は住民の内部被ばく検査をし、主権在民で持続可能な未来を築くと宣言。本市も脱原発を明確に打ち出すべき。立川では電力自由化で電気料金が下がり脱原発に近づいた。

市長 小金井の特性をいかした自然エネルギー利用と政策を示す。総務部長 今後の技術革新を注視して研究する。

②(ア)内部被ばく量を減らすことが重要。給食の放射能測定は(イ)環境の測定は他自治体を把握し連携を。

学校教育部長 (ア)小中学校は7月に保護者要望の牛乳や野菜14品目を市の放射能測定室で測定。子ども家庭部長 (ア)保育園は7月に15品目を測定。

市長 (イ)市は独自対応に前向きに取り組む。

重要課題に対する 新市長の基本方針は

渡辺大三 (みどり・市民)

①ごみ問題について。(ア)「稲葉方針を基本路線とする」と言ったが、何が稲葉方針なのか。(イ)「1年以内に目途をつける」と会見したが、本年度末か4月くらいか。

市民交流センター の購入について



斎藤康夫 (市民会議)

住民投票は重要なシステムだが、現段階での市民交流センター購入の是非には活用すべきではない。

市が、URに施行依頼し、市民検討委員会の答申、事務手続、国・都の補助金・交付金、26億円の資産の投入などの後、竣工し、一度は議会が購入議決している交流センターを小金井市が購入しないと。欠陥が解消されたら、常識に従い市の責任として購入すべきである。ミスリードして市民の誇りに傷を付けてはならない。

市長 購入の賛否は分かれていて。訴訟の可能性も含めて充分に情報開示し、今後住民投票条例案を上げたい。

その他に「可燃ごみ処理問題」「職員給与構造改革、退職金アツプ条例と市長の団体が決めつけたことについて」を質問しました。

防災計画について 市の見解を問う



森戸洋子 (日本共産党)

公的な責任を明確にした災害対応が求められるが、(ア)広域避難場所である市内大学と協定を結び連携しないか、また放射能物質の安全対策を要望しないか。(イ)備蓄倉庫の改善が必要ではないか。(ウ)備蓄品を1日分から3日分に改訂しないか。(エ)一時避難所の扉の閉鎖など分担を明確にしないか。(オ)小金井市の防災計画を改めないか。

市長 (ア)協定を結ぶことは研究に値する課題である。地域安全課長 (ア)細部にわたって調整する。(イ)かなりの備蓄品を準備するので検討したい。(ウ)充足率を引き上げたい。(エ)都は11月に防災対応指針を取りまとめる予定。小金井市としても課題を検証し防災対策の強化に努めたい。

この他に、中央線高架下店舗計画について質疑しました。

ス庁舎(賃借庁舎)を別目的で借り続けたり、購入したりしないかと確認しているか。

市長 賃貸契約を継続したり、購入するという考えはない。

市長は、稲葉市長の多選を批判して当選した。自ら多選自粛宣言をしてはどうか。

市長 少し考えてみ

災害対策の 再確認を!



遠藤百合子 (自民党小金井)

①東日本大震災による地震や津波で亡くなられた方々のご冥福をお祈りし、被災者及びご家族の皆様にご心からの見舞いを申し上げます。(ア)被災地への支援とボランティアバスの提案。(イ)市内災害対策として自治会及び自主防災会の組織率を高める努力を。(ウ)家具転倒防止器具支給の広報は。

地域安全課長 (ア)北上市に救援物資と職員派遣した。今後は大船渡市を予定。職員の派遣は、南三陸町と釜石市に実施。ボランティアバスは支援本部ではかつていく。(ウ)市報等を通じて周知する。

広報秘書課長 (イ)引き続きご相談していきたい。

②国旗掲揚、国家斉唱への対応。学校教育部長 全校で適正実施。

市長 主権国家のシンボルです。③道徳教育を大事に。市長 心の成長を促したい。

たいと思っている。



賃借状況が続く第二庁舎